

ディスエイブルな人々の倫理を考える 責任や非難の視点から

薬物依存は、法律で禁止された薬物を使用したという点で「犯罪」であると同時に、物質使用障害という「精神疾患」でもある。そして、ある人が薬物を使用するに至った経緯を踏まえると、単に隔離し罰するのではなく、手厚い福祉的支援を行うことの重要性・必要性が指摘されている。

依存症の人々は薬の使用を自分の意思で止めることができない。この「できなさ」を拡張すれば、「自分の意思である行為を遂行することや止めることができない」という状態は、他の精神疾患や障害にも多く見られる。私たちは、このような人たちの責任や自由意志をどのように考えることができるだろう？

今回の公開研究会では、金沢大学から佐々木拓先生をお招きし、disableな（無力化された）人々に関わる責任や非難、そして関係について考えたい。

日時：2019年2月9日（土）13:30～16:50（開場13:30）

場所：キャンパスプラザ京都第一演習室 5F

参加申し込み締め切り：2019年2月6日（水）

申し込みフォーム：<https://goo.gl/forms/nJMvNfjCEi3DXIHF2>

プログラム（予定、入退場は自由です）

- 13:30～13:35 企画趣旨説明
- 13:35～14:30 佐々木拓先生（金沢大学）による講演
- 14:30～15:00 特定質問者およびフロアによる質疑応答
- 15:00～15:10 小休憩
- 15:10～15:50 研究会院生の関連した発表
- 15:50～16:30 佐々木先生からのコメントおよびフロアからの質疑応答
- 16:30～16:50 総合的なコメントなど
- 18:00～20:00 懇親会（参加費4000円、希望者のみの事前予約制）

会場の都合上、席に限りがあり、当日直接お越しいただいても参加いただけない場合があります。

懇親会含め、申し込みが定員に達し次第、参加受付を終了させていただきます。

各種お問い合わせは【gr0239vh@ed.ritsumei.ac.jp（研究会代表、高木）】へお願いいたします。